

1. 単元名 思いをつないでいくために（余生をささげた命のしばざくら）自作教材

2. 単元の目標

- 社会に奉仕することは大切であっても、実現したり継続したりすることは難しいという人間の弱さなどを理解する。（人間理解） 【知識・理解】
- 社会に奉仕することの大切さやそれを継続していくことの難しさに対して思いや課題をもち、自己や社会の未来に夢や希望をもつ。（物事を多面的・多角的に考える） 【思考・判断・表現】
- 集団の一員として公共のために役に立とうとする態度を養う。（道徳的実践意欲と態度）  
【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

（1）教材観

本単元は、学習指導要領 C-14「勤労・公共の精神」を中心内容項目とした単元である。本単元では、山形市立谷川で河川緑化ボランティアの「立谷川の花さかじいさん」代表の松田和雄さんの営みを基に学習を進めていく。立谷川の花さかじいさんでは、ごみを捨てられない綺麗な環境づくりを目指し、芝桜の植栽を中心に、有志者による様々な緑化ボランティアを行っている。

その場所は、H17にはニセアカシアでおおわれるジャングル状態で、不法投棄が散乱している場所だった。それを見かねて何とかしたいと気にかけていた田所三男さん（松田和雄さんの義父）が、綺麗な環境にすればごみを捨てられない、綺麗な川で孫を遊ばせたいと、賛同者も得られないまま一人河川整備活動を始めた。その時、田所さんは末期の腎臓がんで数カ月の余命宣告を受け、先進治療を受けながらの状態だった。ところが、ニセアカシアの伐採・整地作業を1人で進めていくうちに、その作業が田所さんの生きがいとなり、まもなく田所さんの癌の症状が消えることとなった。そして、2年間かけて一人で伐採・整地を完了させ、雑草対策として芝桜を植え、その植栽活動を続けること3年。芝桜が咲き誇る見事な河川敷へと変えていった。しかし、この活動が軌道になり始め「立谷川の花さかじいさん」のボランティア団体ができた頃、立谷川の地で命を救われ、立谷川の変化を見届けて命を返したかのように、急性腎不全のため田所さんは亡くなってしまった。

田所さんが亡くなった後、義理の息子である松田和雄さんがその活動を引き継いだ。引き継いでみるととても大変な作業であった。月1回の定例会で草むしりや種まきなどを行うが、メンバーには80～90代の方もいて草むしりなどはとても大変な作業である。月1回の草むしりでは当然追いつかず、松田さんは自主的に休みの日には毎回草むしりに行っていた。しかも、雑草は雪が降るまで1年中取り続けなければならない。作業をしながら、田所さんがどれだけ全霊を尽くしてこの花園を作ったのかを松田さんは感じていた。松田さんはこの活動を継続していく難しさを感じつつも、田所さんの遺志を引き継いでいかなければならない。この取り組みや花園をこれからも残していかなければならないと思うようになった。そして、松田さんが引き継いでから約10年。R3の

10月には、「未来かがやくやまがた景観賞」最優秀賞を受賞し、多くの人に知られる活動となっていた。

## (2) 児童観

本学級の児童には、今年度の学習を通して、様々な人との関わりを通して自分と周りの人とのつながりを感じ、裏側にある人々の思いや活動を持続けることの難しさなどに気づき、思いをつないでいくための行動を自ら起こせるようになってほしいと願っている。

そこで、6年生のはじめ、社会科の租税の学習では、山形税務署の方をGTとして招き、児童は架空のA市の代表者となって、税金の使い道を考えた。その際に、「A市の予算では住民の要望を全て叶えることはできない」という条件で、児童はA市の税金の使い道に優先順位をつけた。また、その後の選挙の学習では、山形市の選挙管理委員会の方をGTに招き、模擬選挙を行った。その際に、児童が考えた税金の使い道を主張する3人の立候補者を立て、実際の投票用紙や投票箱を使用し、本物に近い形で選挙を行った。税務署や選挙管理委員会の方をGTに招き、租税や選挙に対してのGTの思いに触れたことで、児童は政治の仕組みを理解するだけでなく、自分の生活とそれを支えている周りの人とのつながりを感じつつある。しかし、その一方で、「架空」のA市や「模擬」選挙などが題材だったので、自分と周りの人とのつながりを感じつつも、自分事としての実感は少なく、裏側にある人々の思いや活動を持続けることの難しさなどに気付く様子はあまり見られていない。

本実践では、田所さんや松田さんが実際に行ってきた営みを基に学習を進めていくので、児童はその活動の素晴らしさや裏側にある人々の思い、そして持続していくことの困難さなどの現実に触れ、自分事として考えを深めることができるのではないかと考えた。

## (3) 指導観

本単元は、道徳授業を1時間ずつのぶつ切りで考えるのではなく、「命のしばざくら」をテーマに3時間の単元を設定し、その単元の中で複数の内容項目について児童が考えを深められるように構成した。第一次は「勤労・公共の精神 (C-14)」を中心内容項目とし、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 (C-17)」を関連内容項目としている。第二・三次は「勤労・公共の精神 (C-14)」を中心内容項目とし、「希望と勇気、努力と強い意思 (A-5)」を関連内容項目としている。

まず、第一次では、田所さんと松田さんの活動について学んだ後に、「自分だったら松田さんのように田所さんの後を引き継ぐかどうか」を児童が話し合う。そして、話し合った後に、松田さんに「なぜ田所さんの後を引き継いだのか」を話してもらい、松田さんの話を聞き、児童は「田所さんの遺志を引き継ぎたい。残さないといけない。」という松田さんの強い責任感や使命感に気付くことだろう。そこで、「田所さんや松田さんの思いをつないでくために、自分達も何かできないだろうか」という学習課題を設定する。

第二次では、「田所さんや松田さんの思いをつないでくために、自分達も何かできないだろうか」という学習課題に対して、児童が話し合い、話し合ったことを松田さんに発表する。友達と話し合ったり松田さんの話を聞いたりして、児童には「自分にもできることがあるんだ」という思いを持たせていきたい。松田さんからは、児童の発表を受け止めて話をしてもらいだけでなく、児童自身が行動することの大切さについて話してもらい、次時の学習課題へとしていく。

第三次では、「家族や今までの6年生の思いを引き継ぎ、人の役に立つために、自分達は何ができるか」を考え、松田さんに発表する。自分の生活を見つめ直し、公共のために役に立つことをする大

切さや困難があってもくじけずに努力することの大切さについて考えを深めさせていきたい。

#### (4) ESDとの関連

- ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

連携性：田所さん，松田さん，そして自分達の思いはつながることができる。

責任性：この活動を続けていくためには，自分たちの行動が大切である。

- ・本学習で育てたいESDの資質・能力

コミュニケーション力：様々な立場の意見を聞いたり，家族や友達に発信したりしていく。

共感的問題解決力：継続するために自分達も関わっていく

- ・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正：思いをつないで行動にうつしていくことは大切だ。

- ・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくり

#### 4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
社会に奉仕することは大切であっても，実現したり継続したりすることは難しいという人間の弱さなどを理解している。(人間理解)	社会に奉仕することの大切さやそれを継続していくことの難しさに対して思いや課題をもち，自己や社会の未来に夢や希望をもっている。 (物事を多面的・多角的に考える)	集団の一員として公共のために役に立とうとする態度を表している。 (道徳的実践意欲と態度)

#### 5. 単元の指導計画（全3時間）

次	主な学習活動	学習への支援 (・)	評価 (△) 備考 (・)
1	<p><b>本時の課題</b>「思いをつないでいくために大切なことを考えよう」</p> <p>○ 美しい芝桜が咲いている頃の写真と不法投棄があったころの写真を見比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だれがきれいにしたのだろう？</li> <li>・市役所の人？ 地元の人？</li> </ul> <p>田所さんというおじいさんが一人できれいにした。田所さんが亡くなった後，松田さんという人がきれいにしてい</p> <p>あなたが松田さんだったら，田所さんの後を引き継ぐか，引き継がないか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ずっとはできない。続けられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田所さんと松田さんの活動について教師が説明する。</li> </ul>	△ア

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田所さんが命を使うほど大切にしていたのだから引き継ぐ</li> <li>○ 「なぜ田所さんの後を引き継いだか」「継続するためにどんな困難があるのか」などの松田さんの話を聞く。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・松田さんが引き継ぐという決断をしたのがすごいな。</li> <li>・大変なことでもあきらめないことを自分も見習いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GT で松田さんに来てもらい、話を聞く。</li> </ul> 	
2	<p><b>本時の課題</b>「田所さんや松田さんの思いをつないでいくために、自分達も何かできないだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合い、話し合ったことを松田さんに発表する。</li> <li>・実際に自分が見に行くことが大切。</li> <li>・自分も近くの公園のごみ拾いができるかも。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 松田さんの話を聞く。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>自分が何をしたいか、その思いを見つけることが大切。思うだけでなく、行動してほしい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にもできることがたくさんあることがわかった。</li> <li>・自分もちょっとしたことでもずっと続けていきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だれかにやってもらおうのではなく、自分ができていることを考えさせる。</li> <li>・GT で松田さんに来てもらい、話を聞く。</li> </ul>	△イ △ウ
3	<p><b>本時の課題</b>「家族や今までの6年生の思いを引き継ぎ、人の役に立つために、自分達は何ができるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合い、話し合ったことを松田さんに発表する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 松田さんの話を</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>思いをつなぐのは、人のためだけでなく、自分の誇りのためでもある。自分の未来を思い描いて、思ったことを実践してほしい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の考えを黒板で整理し、自分がそう思った根拠を話し合わせていく。</li> </ul> 	△イ △ウ

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が低学年のときに高学年の人が優しくしてくれたことを思い出した。自分も先輩の思いをつないでいきたい。</li> <li>・実践しなければ何も始まらないんだ。</li> </ul>		
--	--	--	--

## 6. 成果と課題

<p>「思いをつなぐ」について（児童の振り返りより抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の思いは違うけど、思いをつないでいくことはみんなができるものだと思います。松田さんからもらった芝桜を大事に育てて、思いをつないでいきたいです。</li> <li>・ 他の人の思いをつなぐことはとても難しいけど、前まで頑張ってくれた人のことを思うと、しないといけないこともあるので、頑張りたいです。</li> <li>・ 思いをつないでいくことは簡単なことではないと思うけど、少しでもよくなる方向にいくのであれば、つないでいく気持ちが多くの人に増えていったらいいなと思いました。</li> <li>・ 思いを引き継ぐことはとても大事なことだと思ったけど、難しいので簡単なことから引き継いでいくといいと思いました。</li> <li>・ 思いをつなぐのは大変だと思った。でも、受け継ごうとしている人はいるから、その人を知ることが大事だと思った。</li> </ul>
---

<p>「生き方」について（児童の振り返りより抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こんな生き方をする田所さんと松田さんがすごいかっこいい。</li> <li>・ 私は命を落としてでもがんばって芝桜を実現しようとした田所さんを誇りに思います。</li> <li>・ 松田さんは、この芝桜の面倒を見ていると、自分の趣味はできなくなってしまうと話していた。自分の趣味を犠牲にしてもこの芝桜の面倒を見る松田さんはすごい人だなと思った。芝桜はこれほど大切に思いが引き継がれていることがわかった。</li> <li>・ 引き継がない人はなんで引き継ぎたくないんだろうと思っていました。理由を聞くとああそういう考えもあるんだなと思いました。なので、松田さんの判断はすごく難しい判断なんだなと思いました。</li> </ul>
---

本実践では、様々な人との関わりを通して自分と周りの人とのつながりを感じ、裏側にある人々の思いや活動を持続させることの難しさなどに気付き、思いをつないでいくための行動を自ら起こせるようになることを目指した。

単元を終えて、上記の児童の振り返りにあるように、児童は単純に思いをつなぐことが大切だという価値を理解するだけでなく、それを継続していくことの難しさに対しても考えを深め、より深い道徳の学びをすることができた。そのような学びになった要因としては、GTとして松田さんに毎時間授業に参加してもらったことが大きいと考えられる。教科書教材でなく、実際に取り組んでいる松田さんに自分たちの考えを話す、そして松田さんの話を聞く。そういった話し合い活動を続けたことで、児童にとってより深い道徳の学びにつながったと考えられる。

また、そのような学びをしたことで、ESDの視点でこの授業を捉えた時に、「田所さん、松田さん、そして自分達の思いはつながることができる」という連携性の視点や「この活動を続けていくためには、自分たちの行動が大切である」という責任性の視点で、児童のESDの見方・考え方を鍛えることができたのではないかと思う。

## 7. 本実践を通じた考察

「価値観の変容」について（児童の振り返りより抜粋）

- 最後の授業で、松田さんが芝桜をみんなにプレゼントしてくれて、最初はこの話を聞いた時に田所さんがすごいと思ったけど、田所さんがなくなってその思いをつないだ松田さんがすごいと思いました。
- 私の夢は管理栄養士なんですけど、管理栄養士になりたくてもなれなかった人の思いをつないでいくことは私でもできるかなと思いました。
- 松田さんのようにだれかの思いを引き継ぎ、また別の誰かに伝えて、感動してもらって…。そんな活動ができたらいいなと思います。私達も卒業プロジェクトに、この授業で学んだことを生かしたいと感じました。
- 田所さんは不法投棄のゴミを片付けていたので、ぼく達にできることは、ゴミをポイ捨てしないことだと思います。今、総合でしているSDGsの学習にもつながっていると思います

上記の児童のふりかえりにあるように、児童は今自分にできることは何なのかを自分事として必死に考え、その中で価値観の変容が見られた。また、教師の方からESDの授業だということを言わずとも、児童の方から「この学習はSDGsの学習につながっている気がする」と、ESDとつなげて考えている姿も見られた。しかし、ESDは、価値観と行動の変容を促す教育であるので、単元構成としては学習後に何かしらの行動変容を求めたいが、3時間単元の道徳の授業の中では、行動の変容まではあまり見ることができなかった。

しかし、「私の夢は管理栄養士なんですけど、管理栄養士になりたくてもなれなかった人の思いをつないでいくことは私でもできるかなと思いました。」という振り返りがあるように、児童はこの実践を通して自分の生き方や将来の夢についての考えを深めている姿が見られた。そこで、この実践の後の修学旅行で、「修学旅行で訪れる場所で働く人の思いについて考え自分達のこれからの将来に生かそう」というねらいを設定し、児童の行動変容を目指した。

修学旅行では、まず事前学習で、修学旅行で訪れる場所で働く人が、どんな思いを持って働いているか、続けていく上で何が大変なのかについて児童が予想した。そして、修学旅行に行き、実際に体験したり見学したりしながら、児童が考えた予想をそれぞれの場所の人に発表し評価してもらったり、それぞれの場所の人にその仕事に対する想いを話してもらったりした。その中で、ホテルで働く人の話を聞いていた時に、ある児童がわざわざ床にノートを置き、働く人の話を一言一句聞き漏らさないように一生懸命メモする姿が見られた。その児童は、学力が低く、普段は学習にとっても消極的な児童であった。それでもホテルの人の話を一生懸命に聞いていたのは、宿泊客の幸せを願って働くホテルの人の姿と田所さんの思いをつなぐ松田さんの姿を重ねていたのではないだろうか。道徳の授業実践を通し、「思いはつながることができる」という価値観が変容したからこそ見えた姿と考える。

また、卒業間際に、もらった芝桜を家でどうしているかを児童に聞いてみたところ、33人中29人の児童が「大事に育てている」「花が咲くのが楽しみ」など、大切に育てている児童が多いことがわかった。中には「田所さんから松田さんにつないでいったように、芝桜の命が続くように大切に育てていきたい」と、芝桜を大切に育てるといふ行動の意味を、「思いをつなぐために自分ができること」として捉え、行動にうつしている姿が見られた。

現在の学年終了時に目指す姿 「単独力～気付き、考え、行動する～」

様々な人との関わりを通して自分と周りの人とのつながりを感じ、裏側にある人々の思いや活動を持続させることの難しさなどに気付き、思いをつないでいくための行動を自ら起こすことができる。

選挙を体験してみたら、以外に簡単だった。みんなが選挙に参加してもっとよより山形県になれたらいいな。

社会科「自分だったら、誰に投票する？」

第1次では、山形税務署の方をGTとして招く。子どもは架空の町の代表者となって、税金の使い道を考える。その際に、「住民の要望を全て叶えるための予算はない」という前提で、税金の使い道に取捨選択、優先順位をつけさせる。

第2時では、山形市の選挙管理委員会の方をGTに招く。第1次で子どもが考えた税金の使い道を主張する3人の立候補者に対し、模擬選挙を行う。その際に、実際の投票用紙や投票箱を使用し、本物に近い形で選挙を行う。

税務署や選挙管理委員会の方をGTに招き、GTの方の思いに触れることで、子どもが自分と政治のつながりを理解する。

道徳「思いをつないでいくために」

(余生をささげた命のしぼざくら) 自作教材

○主に養いたいESDの資質・能力

・ 協働的問題解決能力

グループや学級での話し合いを通して  
思いを引き継ぐことのすばらしさと難しさに  
ついて考える。

○主に育てたいESDの価値観

・ 世代間の公正  
地域の環境保全活動に、大人たちの世代だけでなく、自分達の世代も参画しよう  
と行動すること。また、その次の世代にもその意識をなげいていこうと  
考え行動すること。

私も、去年の6年生の思いをつないで、行動できることはないだろうか？

色々な場所で、それぞれの人  
が思いをもって仕事や活動  
をしているんだな。自分はこ  
れからどんな自分になりたい  
いのだろうか？

修学旅行 「修学旅行で訪れる場所で働く人の思  
いについて考え自分達のこれからの将来に生かそ  
う」、

まず事前学習で、修学旅行で訪れる場所で働く  
人が、どんな思いを持って働いているか、続けて  
いく上で何が大変なのかについて予想をする。

次に、修学旅行に行き、実際に体験したり見学  
したりしながら子どもは自分の予想を更新しつ  
つ、自分が考えた予想をそれぞれの場所の人に発  
表し評価してもらおう。そして、それぞれの場所の  
人にその仕事に対する想いを話してもらおう。

最後に自分が学んだことや体験したこと、出会  
った人の思いを基に、将来自分はどうな自分にな  
りたいかを文集にまとめ、保護者からコメントを  
もらおう。(国語「今、私は、ぼくは」)